

<今回>311回目 2022年2月4(金)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p385、4行目、これに対して より

<前回>310回目(22-1-21)出席者 6名

資料(22-1-21-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 オミクロン株の強烈な感染力に、用心が必要となりました。3回目のワクチンはこちらから積極的に問い合わせが必要です。各地の保健所は8か月後を信じている人が居ます。

B 前回の資料について意見交換をしました。前回資料2) 地元の奈良新聞に地元から反発を受けかねない邪馬台国は近畿ではないという主張をよく載せました。正木裕氏は大学講師の肩書で登場している。

個々にとると、過去に取り上げられて近畿説に有利とされた、①卑弥呼がもらったという銅鏡100枚は材料分析の比較素材が間違っていた事。②墨痕のある石の破片が硯とわかり、過去の石片を調査し直し、硯と判明したものが博多湾岸から続々と発見され、卑弥呼の文書外交や交易の状況が推定される状況になった。③2018・12・大阪歴博で開催された「古墳時代の都市化の実証的研究」として卑弥呼時代に最も都市化の進んだ地としてJR博多駅南の比恵・那珂遺跡地域である。④須玖岡本遺跡で古代の権(分銅)で11gを基準に3倍、6倍、20倍の石権が弥生中期の遺跡から発掘された。2021年9月1日に10倍権が発見され10進法が確かめられた。韓国慶尚南道の茶戸里(タホリ)遺跡では青銅製の11gの権が発見されている。畿内では亀井遺跡に基準値は8.7gで2, 4, 8, 16, 32倍の権の系列が発見されていた。半島との交易は近畿ではなく筑紫ということが証明されたという。韓国と北部九州は10進法、近畿は2進法と理解してよいか。

JR博多の南、比恵那珂遺跡はすでに市街地になり、確かめようがない。70,000戸がどこにあったか、再論した。

C 読書 p384不明の学問僧 より

- 1) 旧唐書の日本伝に対応するのではないかという記事が日本書紀に出ている。孝徳紀直後に引用された「伊吉博徳の言」である。白雉5年(654年)2月高向玄理らが2船に分かれて渡海し、天子にまみえて、役人の郭大挙が日本国の地理と初めの神の名を問い、すべて答えたと書いている。ここで高山氏から重ねて質問、(奇しくも両書一致する)の両書とは何と何か。
- 2) 清水は日本書紀と旧唐書の日本という表現のこと。奇しくもの表現は703年より以降しか日本国を認めていないように見えるが、654年に玄理らに日本国の地理や最初の神の名を問うていて、倭国の別種、日本国の使者と認識している。古田氏はこれまで中国史書を重視する立場から倭国の音信が絶えた以降、703年則天武後に認められる間で近畿日本国へと列島の覇者の認識を改めたことを示している。(倭国は多利思比孤以来の隋唐に不服従な態度から別の倭種近畿の大王に列島の代表権を積極的に認めようとした)
- 3) 学問僧 恵妙(死)知聰(海死)智国(海死)智宗(帰着)覚勝(死)義通(海死)定恵(帰着)妙位、法勝、氷連老人、高黄金併せて121人。倭種韓智興、趙元宝(帰着)という13人中8人が日本書紀の名簿に無い。
- 4) 博徳の記録から遣唐使や学問僧、学生の13人中8人が不明の名前である。白雉4年5月の遣唐使船を例にとれば大使、副使、学問僧13人、学生2人を挙げている(人名略)120名中17名くらいの方は高位。

2022-2-25(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

3-4(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室